

ネットワーク連絡会 会議要旨

日時：平成18年7月11日(火)午後6時～午後8時
会場：しんじゅく多文化共生プラザ 多目的スペース
参加者：33人

～しんじゅく多文化共生プラザの実績報告～

区： 前回の連絡会を受けて、各分科会の話し合いが始まっています。分科会の活動は、まだ始まったばかりなので、積極的に皆さんに参加してほしいと思います。参加は本日配布したアンケートでお答え下さい。

月報のとおり、6月は1,574人(日本人を除いて680人) 36カ国の方にご利用いただきました。これは、プラザオープン以来、過去10ヶ月の最高人数です。日本語リソースコーナーの利用者数は102名でした。利用者の国籍を見ると、全国の特色と類似しているのがわかります。

A： ロシア人の利用が突出しているのはなぜですか？

区： 在日ロシア人の活動団体が週末、定期的に利用しているからです。もちろん日本人も参加可能です。ロシア人は都内で2000人いるそうです。

～初めて参加したメンバーを紹介～

初めてご参加いただいた方にご挨拶していただきました。

～分科会の活動報告～

(1)ホームページについて

区： 分科会にて、5月19,23日と2回にわたって話し合いました。

ホームページについては、現段階では、お互いの活動団体内容を知ることが目的となります。内容は、ネットワークの趣旨説明や活動案内(今までの話し合いの内容、次回連絡会の予定) ネットワークに参加している団体の紹介(各団体のサイトリンク)を盛り込みたいと思います。

また、ホームページは(財)新宿文化・国際交流財団のしんじゅく多文化

共生プラザのホームページ上に作ります。オープン 1 周年にあたる 9 月 1 日にアップする予定です。ホームページの作成をはじめ、多言語化へ向けて翻訳などの協力者を募集することになります。

なお、掲示板、ブログについては、分科会で話し合った結果、管理が難しいため、現段階では見送ることになりました。メーリングリストは、ネットワークで決定次第検討します。

- B : ネットワーク全員のメーリングリストは、興味外のメールも受信してしまいます。興味が一致する者同士が情報を共有するため、テーマ別のメーリングリストを作るのが望ましいと思います。

(2)子どもの教育・生活支援について

- 区 : 分科会にて話し合いをしましたが、その会だけでとどめるのではなく共通認識を持つべきだと思われま。Cさんからご説明いただきます。

- C : 団体ではなく、個人の立場で参加しました。

まず、支援が必要な外国人の子どもが新宿区に実際どれだけいるのか、教育委員会で調査し、実数を把握することが必要だと思ひます。

初期段階では、教育委員会の日本語適応指導が 50 時間あるが、結局それだけでは教科学習についていけません。放課後に日本語学習と教科学習の両方のケアが必要となってきます。

子どもの状況に応じた細分化したサービスと、支援者となる人材の育成が必要であり、そのための経費は行政がまかなうべきだと思ひます。

活動場所としては、地域センターや図書館、児童館などの既存施設を夜間利用する案が出ました。

また、学習だけではなく、基本的な生活習慣をつけるためのサポートが必要です。夜間に就労している親もいるのでさまざまなケースに応じた子どもの居場所づくりが必要になります。子どもをサポートすることがその家庭全体のサポートにもつながると思ひます。

区民だけが考えるのではなく、全庁的に行政も考えてもらいたいです。住民ができないことを行政が取り上げてほしいと思ひます。

- 区 : 子どもの日本語学習の話が、その背景にまで話が及びました。皆さんにも共通認識を持ってほしいと思ひます。

- D : 今や 10 組に 1 組が国際結婚です。そして、その子どもは、二つのアイデンティティと言葉を持つ貴重な人材になる可能性を持っています。

そうした子どもを「課題」ではなく、「財産」としてとらえて今苦勞すれば、将来は区の「宝物」になるはずで。

- E : ここで情報提供として講座開催のお知らせをさせていただきます。
7月17日(海の日)の午後4時~7時に、「外国人親子を集めた座談会」を大久保地域センターA会議室で開催します。もしよろしければ、周りの外国人に周知願います。

(3)多文化防災訓練について

- F : 昨年の実施状況、参加人数について報告します。
昨年は10月29日に大久保小学校で実施しました。参加者は313人うち外国人は104人でした。水消火器、応急救護、起震車、煙体験、バケツリレーなどを行いました。
- G : 昨年の反省点として、多文化防災訓練の目的が「防災訓練」なのか、「避難所訓練」なのか微妙なところでした。
我々としては重点に考えているのが、避難所の中の運営システムです。避難所では日本人と外国人が交じり合うので、文化・生活習慣の違いで問題が起こりえます。外国人の組織から中でリーダーになる人に参加してもらって避難所の運営に携わってもらうのがよいと思っています。
訓練そのものは、消防署管轄の訓練でしたが、多文化防災訓練では、参加者、運営側がともにお互いに共生していくという意識がないとうまくいかないと感じました。

- 区 : 【多文化防災訓練 今年の予定とネットワークとしての参加の説明】

(4)プラザ一周年記念事業について

- 区 : 【プラザ一周年記念事業の説明と協力の依頼】

~ 意見交換 ~

- H : 一周年記念事業について、3本の企画を入れさせていただきました。その企画について説明し、興味を引くものかどうか、皆様のご意見をいただきたい。
9月8日の「もっと知りたい韓国の食文化」はいろいろなお茶とお菓子の紹介になります。韓国の医食同源の食文化をお伝えしたいと思います。
9月12日の「韓国の伝統的な遊びと年中行事」は昨年のコリアンフェスタで大変人気があったものです。直接遊べるのが魅力です。
9月16日の「ワンポイント韓国語講座」はドラマを題材に、言葉だけでなく、韓国の家庭環境など文化も一緒に紹介したいです。

- D : 防災訓練について、意見を申し上げたい。通訳者は、防災カードを作って、それを実際に使って研修をした方が実践的で効果的です。同じ人が通訳として「防災カードの翻訳」「訓練の通訳」と一貫して携わった方がよいと思います。
- F : 防災訓練で予定している「文化交流」はどのくらい予算がありますか？それによって、料理を出す、出さないの判断をされると思います。
- 区 : 当然、予算の措置は必要と考えていますが、金額は要相談ということでお願いします。
- E : 防災カードは、今回の防災訓練だけでなく、全域に使えるものと考えていますか？
- 区 : まず今回の訓練で試作をし、終了後に検討を重ねて徐々に完成度の高いものにしていこうと思っています。完成したら、そのカードを日本語教室の教材等にも使用したいと思っています。
- I : 一つ目に、昨年の反省として、通訳が機能していませんでした。当日どういう訓練をするのか、台本を用意しておく必要があります。
二つ目に、三澤会長から、果たして多文化防災訓練は防災訓練なのか、避難所訓練なのかという話がありました。今年は昨年よりも踏み込んで、助けを求めてきた人が安心して帰れるような、そんな印象を与えるような工夫が必要だと思います。
三つ目に、一周年記念イベントは、外国人対象なのか、日本人対象なのかということです。両方がともに楽しめるものということであつたら、是非日本の文化を外国人に紹介してほしいです。
- C : 防災カードの多言語とは、どこまでの言語をいうのですか？
- 区 : 区の基本としては、日本語ルビ付き、英語、中国語、ハングルの四言語です。
- J : タイ語も使ってほしい。翻訳に協力をします。フィリピンのタガログ語もどうでしょうか？
- D : タガログ語については、相談させていただくことになります。
また先ほどお話があったメーリングリストですが、興味・分野別もいいですが、全体が入るメーリングリストもあるといいと思います。
あと、先日開催された「外国人のための高校進学ガイダンス」の報告ですが、10カ国から19人の参加がありました。ただし、区内にいる外国人の数

からすると、参加者が少ないと感じました。こうした情報をメーリングリストで送付して、各団体に外国人への周知にご協力頂ければよいと思います。ホームページだと何度もチェックしないので、対応が遅れると思います。

K : 防災カードについてですが、通訳も大事ですが、それと同時に外国人に日本語を覚えてもらわなくてははいけません。とっさの時はやはり日本語が中心になると思います。

L : その意見に賛成です。最低限の日本語を覚えてもらうことが大切です。

区 : 自分の意思を伝えるために、日本語をまず覚えることが大切ということですね。

D : 淡路大震災の時の経験からすると、災害初期ではなく、災害1ヶ月後に義援金の複雑な手続きや長期の避難所暮らしからくるストレスで、衝突することが多くあるようです。復興時にも多言語による情報が必要になってきます。

M : 生活情報紙が防災訓練の研修の9月に間に合うとよいですね。

区 : 製本されたものは間に合わないかもしれませんが、原稿でしたらその時期に出来ていると思います。

A : NPOで外国人の防災に特化した団体を作りたいとの相談を受けました。参考として報告しますが、震災対策は大きくわけて3つに分かれるようです。

一つは地震が起きるまでの備え、二つには実際に起きたときの行動、三つには避難所に入ってからからの行動、結局その後の復興が一番大変ということですね。

また分科会の進め方ですが、2時間あるとしたら、最初に4つのテーマに分かれて1時間あまり議論して、残り30~40分でそれぞれの分科会の発表を行うという進行もあるのではないのでしょうか。

N : 多くの外国人は、災害が起こったら帰国すると思います。ただ災害になっても残らざるを得ない人もいます。そういう人の多くは文字が読めないのので、対策を考える必要があります。

現状からすると多言語のチラシを作りすぎていると思う。無駄なところにお金をかけている気がします。外国人の実態をまず把握すべきです。ある意味、組織化された多数の外国人に対して過保護に感じます。

- A : 各自治体が出している多言語情報は、ある程度広域的に共有できる情報もあるので、一元化できると思う。共通の情報に、各市区町村が必要な情報をさしこめばよいと思います。それは東京都に提案しています。
- E : 震災が起きたら、大久保もすぐ淡路大震災の「神戸市長田区」のようになると思われます。大久保は店舗が広がっていつでも出火する状況にあります。
「津波が来たら高台に逃げろ」のように、ある程度ポイントを押さえた避難情報も提供すべきです。
- 区 : そろそろ時間になりました。次回以降は、また分科会で進めていきたいと
思います。参加希望はアンケートでお答えください。
- 区 : 本日のご意見をもとに、分科会を中心に皆さんと連携して、多文化共生の
まちづくりを進めていきたいと
思います。